



発行元
東京新聞
南千住東口専売所
TEL5850-3699
発行責任者
鬼塚 佳代子
TEL090-2657-0300

傾聴ボランティアグループ

ダンボの会

「いっぱい、お話を聞かせてくれませんか」

傾聴ボランティアグループ「ダンボの会」は、平成14年に発足し、男性6名を含め、30〜80代の現在59名の会員がおります。

訪問傾聴ボランティアとして荒川区にお住いの一人暮らしの高齢者の方、家族と暮らしていても日中お一人でお過ごしの方、お話をしたいけどなかなか外出できない方、障がいがあつて閉じこもりがちの方達のご自宅に1ヶ月に2回、二人一組でお伺いして1時間程度お話を相手と致します。また、施設訪問ボランティアとして、特別養護老人ホームや老人保険施設デイサービス等、必要に応じて利用者の方とのお話を相手と致します。

「心を込めて、聴かせていただく」

高齢化率が都内でも高い荒川区、一人暮らしの高齢者の「さびしい」の訴えに、ボランティアがお話し相手になってその孤独を受け止める為、傾聴ボランティア講座が始まったのでないかと思えます。

聴とは、「聴く」の字の如く、「耳と

目と心でできく」のが「傾聴」の基本です。「こちらの聞きたいこと」を「聞く」のではなく、「相手の言いたいこと、伝えたいこと願っていること」を受容的・共感的態度で「聴く」ことです。相手の話を受け止めて、話し手がさらに多くのことを話せるように聴くだけです。

人間関係の悩みの大半は、コミュニケーションの悪さから発生します。お話を傾聴とは良い人間関係をつくる基本で、そのためには五感を使って思いやりの心で話し手の話を一所懸命聴き、人を理解するためのものです。

人は誰しも、理解され、認められたいという心理的な欲求も持っています。特に、ストレスを抱える現在社会において、話を聞いてもらい理解してもらおう心理的充足感を満たすコミュニケーションが必ずとされています。人間の感覚として、聴いている時間は長く感じ、話している時間は短く感じ、また、ほとんどの人は、聞くより話すことのほうが好きです。人を理解しようとする真剣に聴くことは、非常に集中力と労力を必要とします。

傾聴する場合、自分の考え・価値観・経験



値からの問題解決のアドバイスはしてはなりません。また、解決できるような仕向けるような作為的なことであつてはなりません。

ダンボの会に入会するには、毎年1回開催される傾聴ボランティア養成講座を受講後、入会できます。

また、傾聴ボランティアに来ていただきたい方はあらかじめボランティアセンターにお問合せ下さい。ご本人や家族、ケアマネジャーからの申し込みも可能です。利用料は無料です。曜日や時間帯はご希望に応じて調整致します。

一人暮らしの方やなかなか人と話す機会が無い方、思い切つて一歩踏み出し、心の扉を開いてみませんか。話すことによってストレスが発散し、新しい人間関係を作れます。

申し込み問合せ

荒川区社会福祉協議会

あらかわボランティアセンター

TEL 3802-3338

FAX 3802-3831

vorasen-arakawa-shakyo@mhd.nifty.ocn

